

第3学年1組 学級活動(2) 学習指導案

1 題材名 「言葉のヒミツ 友達となかよくすごそう」

(内容(2)のイ よりよい人間関係の形成)

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領「特別活動」の第1節学級活動の2内容(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の(イ)「よりよい人間関係の形成」をめざすものである。小学校3・4年生はギャングエイジと呼ばれる発達段階を迎え、仲のよい友達を中心とするグループを作って過ごすようになる。グループ形成における望ましい人間関係づくりには、コミュニケーション能力が必要不可欠である。児童は友達と一緒に学んだり遊んだり、さらに協力して課題を解決する経験を通して、その力を身に付けていく。

しかし、本学級では、相手の気持ちを推察せず、自分の思いや考えだけを伝えようとするため、トラブルが発生することも少なくない。また、自分の考えに固執し、限定された人間関係の中での活動や遊びの傾向がみられ、相手に伝えるというコミュニケーション能力が十分に身に付いていない児童もいる。そこで、本学級の友達同士による言葉の言い方、捉え方の差異によってトラブルが起きているという実態に気付かせ、自分の思いや考えを相手に望ましい形でしっかりと伝え、基本的なコミュニケーション能力を育てることで、望ましい人間関係を形成できるようになってほしいと思い本題材を設定した。

(3) 指導について

本題材において育成する資質・能力は、学級や学校において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解することについて考え、互いを尊重し合う人間関係を形成することができるようにすることである。そのため、児童がよりよい人間関係形成しようとする態度を養うために、友達と関わる過程を通して自己理解を深め、互いに協力し合って温かな人間関係を形成していくための知識を積み上げていくようにする。

事前の活動では、友達との関わりに関するアンケートを通し、あらかじめ児童が友達との関わりや自分の言動について考えることができるようにする。

導入では、アンケートの結果と言葉によるトラブルの例を挙げることで、問題点を明らかにし、みんなで解決していこうという意欲を高め、児童一人一人に課題意識をもつようにする（つかむ）。

展開では、やさしい言葉を使って生活すると、どのようなことが起きるのか考えることで、やさしい言葉のよさに気付くようにする。そして、クラスの中から言葉づかいが気になるという問題点を自分のこととして考えることで、言葉には人を嬉しくさせる働きと、本人の意図しないところで傷つけてしまう働きがあることについて改めて気付くことができるようにする。この際、レガシーカードを活用し、「一度言った言葉は取り消すことができない」という児童のつぶやきを取り上げることで、言葉の持つ力や責任について確認できるようにする。そして、クラスの中で起きたいいくつかの例を参考に、言葉の内容以外にも声の調子や目線など非言語な側面が相手の受け取り方に影響していることにも気付かせる。（さぐる）。

次にグループの中で自分にとっても相手にとっても好ましい言葉の伝え方にはどのようなものがあるのか整理・分析をしていく（みつける）。

終末では、グループで話し合ったことを参考にして、自分自身を振り返り、これからのめあてや実践方法を決める。「つかむ」「さぐる」「みつける」「きめる」の一連の学習を通じ、言葉づかいや伝え方を見直し、目標を決定し、実践することで、友達との関わりで望ましいコミュニケーション能力が形成されるようにしていく。

事後の活動として、ワークシートに実践の記録を書くようにする。学校で学習したこと、身に付けたことを、学校外で実践できるようになってできるようになったと言える。そのため、保護者にも取り組みを知らせ、協力を依頼することにより、継続して実践できるようにしたい。

4 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団生活に取り組もうとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿と評価方法
・アンケートの記入をする	・友達の間わり方だけでなく、自分の間わりについて考えるように事前に知らせておく。 ・児童の相談を記録する。	◎アンケートに記入し、クラスにおける友達との間わりの中から言葉づかいや言葉の伝え方などについて考えることができる。 【態度】【アンケート】

6 本時の学習指導ねらい

(1) 本時のねらい

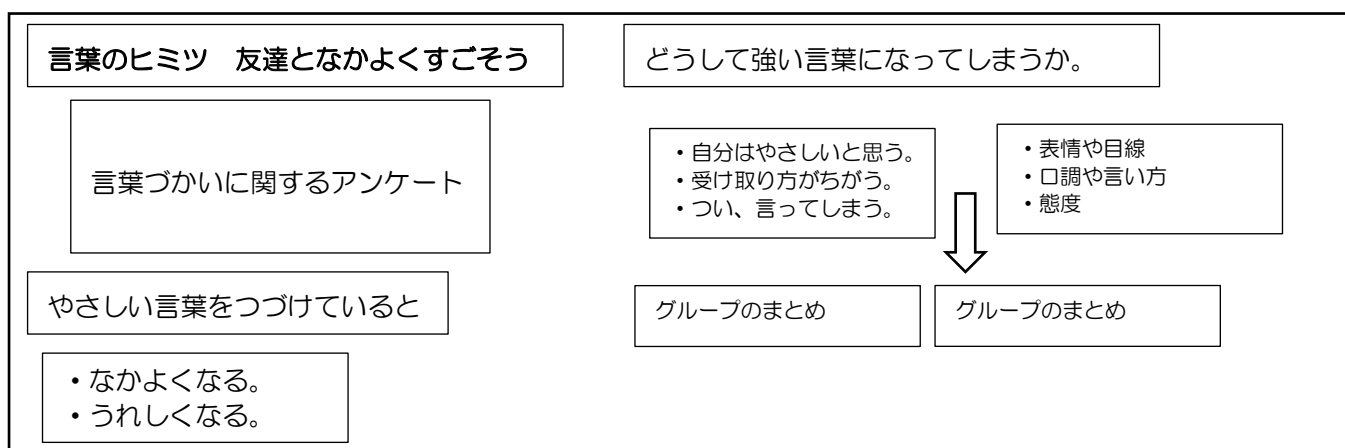
日常生活から自分の言葉づかいを振り返り、相手の気持ちや立場を意識した伝え方の大切さを理解し、友達と仲よくできる言葉づかいができるようにする。

(2) 本時の学習

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点（配慮・手立て） ◎評価
導 入 つ か む	1 アンケートの結果から、クラスの中で言葉によるトラブルが多いことを知る。		○学級の共通の問題として捉えられるように、アンケートの結果を活用し、話し合う。 ○意見をもとに、自分事としてとらえることで、問題点を明らかにし、みんなで解決していこうという意欲を高める。 ○活動において、特定の個人名が出ないように配慮する。 ○アンケートの結果や気付いたことの発表から、教師が本時の題材を提示し、解決に向けての意欲化を図る。
	2 アンケート結果を見て気付いたことを話し合う		
	3 本時の題材を知る		
	言葉のヒミツ 友達となかよくすごそう		
展 開 さ ぐ る	4 やさしい言葉を使って生活していくとどうなるのか考える。	○友達との関係性 ・仲よくなる。 ・親切になる。 ・嬉しくなる。	○言った自分と言われた相手の気持ちを考えることで、友達との関わりに言葉が大切な役割を持っていることに気付かせる。
	5 相手の気持ちを考えず、強い言葉を使ってしまう理由を考える。	○自分と相手の立場の違い（原因） ・優しく言っているつもり ・気づかなかった ・これくらい大丈夫	◎自分の言動を客観的に振り返り、友達との言葉づかいにも気を付ける必要があることを理解している。 【知識・技能】 【発言・ワークシート】
み つ け る	6 自分の考えを相手にとって、気持ちよく伝えるようにするためにどうしたらよいかグループで話し合う。	○相手にとって気持ちのよい伝え方 ・優しい言葉づかい ・決めつけはしない ・～しよう。	○教師が望ましい伝え方とそうでない伝え方を例示することによって、言葉そのもの以外にも意識することがあることに気付かせる。

終 末 決 め る	7 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・～やってみよう。 ○言葉以外に注目する部分 <ul style="list-style-type: none"> ・態度（目線や表情） ・声（大きさ・口調） ・伝え方（繰り返し、強調） 	○付箋に書き、交流ができるようにする。 ○意見は理由を付けて発表できるようにする。 ○グループで意見をまとめる際に、どのような伝え方がよいか意識しながらまとめられるようにする。 ○他の班がまとめた意見を確認し、自分たちがまとめた意見と比べられるようにする。
	8 話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を意思決定する。	○意思決定のしかた	○めあてが決められない児童には、他の班のまとめや黒板の例示を見に行ってもよいことを助言する。 ◎自分の今までの言葉を振り返り、相手の気持ちになって伝えること大切さについて考えている。 【思考・判断・表現】 （発言・学習カード） ○1週間実施し、自己評価できるようにする。
	9 実践への意欲化を図る。		

7 板書計画



8 事後の活動

- ・自分が決めためあてに向けて1週間程度、実践活動に取り組む。
- ・取組について振り返る。
- ・家庭にも取組の様子を伝え、学校だけの取組で終わらないように連携する。

言葉のヒミツ 友達となかよくすごそう

3年 番 名前

○自分をふりかえろう

今まで自分が言ってしまった言葉や言い方で、気になることはありますか。
(○○の時、「△△」と言ってしまった。この話し方よくなかった。など)

○やってみよう

友達との関わり（言葉）で気を付けて生活してみようと思うことを書こう。
(○○を言わないようにする。△△と言いかえるようになど具体的だとちょうせんしやすいです。)

☆じこひょうか ^{いしき} (意識してできた◎ 変わらなかった△ できなかった×)

日付	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18
曜日	月	火	水	木	金
ひょうか					

●1週間の感想

言葉づかいを意識して、友達との関わり方はどうでしたか。

--

●お家の人から

言葉づかいはどうでしたか
意識している様子は見られましたか。

--